

悪質な西側メディアによるシリアの破壊

【訳者注】ピーター・コーニグ（ケーニグ？）は、根源的に欧米が世界の犯罪者であるという見方を、アンドレ・ヴルチェクと共有しており、その悪魔的な正体を完全に見せているのが今であると考えている。これは「純化された悪」という P・C・ロバーツの考えとも共通する。ここに言われている、西側軍の使う兵器を考えてみよ。彼らは、罪も恨みもない者たちを敵として、ただ殺すのではなく、なるべく苦しませて殺そうとしている。生き残っても、何世代も後まで障害が残るように作られている。これは彼の言うように、人間を放棄した者のやること、サタンのやることである。そして「思い違いしてはならない、ワシントンは決してこれを放棄する気はない。」(p.4) なぜか？ サタンだからである。これが聖書の言う、毒麦がよい麦と区別できるようになり、完全に目に見える悪として純化された姿である。彼らはこの世界を滅ぼすまで手を引くことはない。この論文をよく読んで理解しなければならない。誰かがこれを阻止してくれるのでない。我々自身が目覚めねばならない。アメリカの TV 警世家アレックス・ジョーンズが常に訴えるように、**You Are the Resistance!**（あなた自身がレジスタンスなのだ！）

参考文献：「我々はどういう世界に生きているのか？——この異常な背後に見えてくる暗黒集団」（2016/5/22）

Peter Koenig

Information Clearing House, October 6, 2016



⇒ ウソに基づく対シリア戦争

「500 万のシリア人民がすでに祖国を追われている。現在彼らは、中東全体に散らばっている——レバノン、ヨルダン、イラク、エジプト、トルコなど。中には、ヨーロッパ、カナダ、チリにまで行った人たちもいる。

一つの国に、これ以上の忍耐ができるだろうか？

そして、どうして世界の残りの者たちが、傍観するだけで、彼らが地獄を引き回らされるのを見ているのか？

答えは明らかだ。世界の残りの者たちは知らないからである。彼らは理解していない！ 西側のマスメディアや洗脳教化機関から流れ出るプロパガンダは、あまりにも徹底し、プロの知恵をもっているのに、世界中の大多数の人々にとって、シリアに関するすべてが、ぼやけて見通せず、信じられないほど複雑に見える。アル・アサド大統領は毎日のように悪魔扱いをされている。英雄的なレジスタンスは、“体制側の残忍な行動”と呼ばれ、西側に使われるテロ・グループは“穏健派反政府軍”だと言われる。」

——これは、親友アンドレ・ヴルチェクの最近の論文「西側帝国主義に対するシリアの英雄的戦い」からの引用である。<http://www.informationclearinghouse.info/article45599.htm> 彼はむしろ控えめな言い方をしている。ヨーロッパに住み、毎日何度も繰り返し、何週も続けて、この陋劣なウソのぞっとする射撃にさらされるのは、耐えられないことだ。

西洋（西側）ともいうヨーロッパは、虚偽が蔓延し、利益と更なる儲けと個人的安楽への渴望にとりつかれている。そこには自己中心的で、世界の人々は言うに及ばず、自分の近親さえ顧みない者たちが住んでいる。犯罪と恐怖の大元であるアメリカ以外には、こんな所は他にない。ヨーロッパは何百年もの植民地政策によって、これら不名誉な属性をもつ頭だったが、今、すべての良心を失った。ヴェールがはがされた。そこには恥の観念のかけらも残っていない。

現実を見よう。西側世界を支配する6つの、アングロ・アメリカンの巨大メディアは、プロパガンダに何十億というカネを費やすことができる。カネは問題ではない。それは虚空から作られる。戦争のためのカネも問題ではない。それも虚空から得られる。それはドル製造印刷機、すなわちアメリカの私立銀行制度によって作られる。今日、アメリカで作られるすべてのカネの97%は、ほとんどウォール街によって、負債の形で、私立銀行によって作られている。そして地球規模での金融詐欺の縮図はゴールドマン・サックスである。この同じG・サックスが、かつてそこの重役だった人を頭とする欧州中央銀行を通じて、EUの金融財政政策を立てている。<http://www.businessinsider.com/these-6-corporations-control-90-of-the-media-in-america-2012-6>

だからアメリカの負債を、自分の準備金庫の財務省債券として買っている世界の他の国は、

実は、すべての戦争を財政援助し、シリア、ロシア、中国、イラン、ベネズエラのような、屈しない国々の誹謗の援助をしているのである。そして、このリストは、人々が抵抗するにつれて、毎日のように膨らんでいく。プロパガンダのほとんどは、ロスチャイルド・ギャングによって支配されている国家そのものに向けられ、それは、ロックフェラーや、連邦準備銀行自体がそうであるような、この世界の合弁企業とグルになっている。

シリアの戦いは確かに英雄的である。この国は大胆に立ち上がる一方で、何十万という死者を埋葬している。その多くは女性や子供で、彼らは将来のシリアを再建するはずだった。彼らは、クラスター爆弾、リンを詰めたミサイル、殺人サリンガス、などによって悲惨な、苦痛を伴う死を遂げている。それらは NATO、CIA、および中東の従僕同盟国によって、テロリストに手渡されたものだ。他の人々は祖国を逃げ出さねばならなかった——自分の国が、飢餓、病気、差別、暴力の最も恐ろしい状態に陥ったために。しかし西側の主流メディアは、大衆を洗脳して、これはバシャル・アル・アサドの仕業だと信じさせようとする。この合法的なシリア大統領は、ロシアとプーチン大統領の援助を受けて、現在もシリア人口の 80% に近い支持を得ている。これは前に言ったことだが繰り返さねばならない——我々は第三次大戦のさなかにいる。しかし外交のチェス戦略家ナンバーワン、ウラジミール・プーチンのおかげで、我々はこれまでのところ核戦争を免れている。

シリアは西洋が発明した最も忌まわしい兵器と戦っている。それは単に殺すだけでなく、死ぬまでに恐ろしい痛みを与えるように工夫されている。そして生き残る者には、何世代も続く障害や奇形を与えるようになっていて、たとえ平和が戻ったとしても、正常な生活のできない人々が何世代も続くだろう。イラクのファルージャは一つの例である。アレppoもまた、このようなゾツとする遺産となるかもしれない——もし、シリアとロシア軍によって早急に解放されなければ。

戦争の犠牲者の写真、または現実そのもの、シリアや中東で犯されている野蛮行為を見た上で、西側のウソ宣伝が、連日、執拗に繰り返されていることを知ったとき、西側は人間であることをやめたと結論するよりほかなくなる。その経緯は、何百年も前に始まった、西洋とそのユダヤ - キリスト - 神教によって、文字通り全世界に対する、植民地搾取、大量虐殺、奴隷化、拷問から始まっている。水責めとか他の悪魔的な拷問の方法が、フランスやスペインのカトリックの王の下で考え出されたこと、12 世紀に始まり、ほとんど 800 年も続いた、悪名高い宗教裁判のことを考えてみよ。その胸の悪くなる拷問の方法が、CIA、MI 6（英情報部）、モサド（イスラエル情報部）など、帝国に仕える現在の西側のすべての特殊部隊や秘密情報局に、そのまま受け継がれている。これ自身が、非人間的なヨーロッパ人種の子孫にほかならない。

シリアは、西側文化全体に立ち向っている。この文化は死にかけているが、何とか、末期的なドル製造機械制度のもとで、人工心臓によって生かされている。我々、この恐怖を見透かしている者は、立ち上がって、それを人々に大声で告げなければならない——洗脳されたゾンビ状態から目覚めよ。そして、我々すべてが持って生まれた良心に、わずかの火を灯さなければならない。我々は成功するだろうか？

思い違いしてはならない、ワシントンは決してこれを放棄する気はない——自らは決して。彼らの目標は世界制覇、すなわち思い上がった彼らの PNAC (新しいアメリカの世紀計画) である。そしてこの目標達成のために、シリアを滅ぼすことが、ずっと前から、1990 年代から計画されていた。“政権交代”は情け容赦なく追求されている。Wesley Clark の 2007 年 10 月 3 日の講演「5 年間で 7 か国が滅びなければならない」をご覧ねがいたい。

https://youtu.be/nUCwCgthp_E

中東、北アフリカを通じて永久的に混乱を拡大することと、シリアの分割政策ということに加えて、アサド氏を亡き者にしなければならない重要な理由の一つは、アメリカの巨大石油会社がシリアとトルコに通そうとしたのだが、アサド氏が拒否し続けた、悪名高い、カタールのガス・パイプラインである。彼は 2000 年にノーと言い、2007 年に決定的なノーを宣言した。まさにこの年に CIA は、テロリスト集団の募集と訓練を始め、これが究極的にシリアの 2011 年の“アラブの春”となって噴火した。これは都合のいい言葉で“内戦”と呼ばれているが、もう一つの露骨なウソである。それは完全な国家間戦争であり、ワシントン - NATO と、ヨーロッパや中東の従僕国同盟軍の仕掛けたものだ。そしてそこに、彼らの歩兵と、給料のよい傭兵、つまり西側が募集して育てたテロリスト集団が加わっている。

(<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160918.pdf> を見よ。)

このパイプラインは、ロシアのヨーロッパ・ガス市場を妨害すること、そして最も重要なのは、ドルの世界制覇を手放さないことが狙いである。それは、ほんのもう少し先までドル支配を延長するために、何兆という負債ドルを印刷することを正当化するだろう。イラン - イラク - シリアからヨーロッパへという代替パイプラインが、それを補うことができる。それはイラン、ロシア、そしてシリアにとって好都合であり、また、西側のドル・システムの軛を抜け出そうと思っている、ほとんどの将来のヨーロッパ顧客からも、ひそかに歓迎されるだろう。ロシア、中国、そして SCO (上海協力機構) の同盟は、すでに何年も前に、ドルの支配から自由になり、炭化水素の取引を含めて、取引には彼ら自身の通貨を使っている。

怪物を敗退させる唯一の方法は、その血だらけの長靴の下から、絨毯、つまりカネの絨毯を引き抜くことである。これはすでに徐々に起こっており、思っているより、もっと早く起こ

るかもしれない。2007—2008年に——オバマ、メルケル、メイたちのひもを引き、**One (New) World Order** を目指す隠れたエリートの最上層部の命令のもとに——ワシントンが始めたこの人為的な“危機”は、決して終わることはない。なぜなら、それはドルと、その副産物ユーロの優越権を、どたん場のハルマゲドンまで、引き延ばすように意図されているからだ。しかし「我々人民」は、それが、その恐ろしい終わりにまで行き着くのを、阻止することができる。

世界がこの事実にも盲目で、学者先生方が“危機”の詳細や、責任者が誰かを（首謀者が明らかに金融システムを支配している“見えないエリート”なのに）あれこれ論じたり、また政治家が光を見ることの結果を怖れたりしている限り、その限り、支配者は事を進めて、蝨のように世界にまとわりつき、徐々に、しかし着実に、その体内と体外の汁をすっかり吸い取ってしまうだろう。それはすでに起こっている。

モスクワの門前への NATO の進出、また、大きく宣伝された、南シナ海での中国の主権への、アメリカの馬鹿々々しい脅しを見るなら、ワシントンがどんなことについても真剣に交渉する気のないことが明らかである——シリアの停戦にも、兵器用のプルトニウムの削減にも、ウクライナのドンバスの戦闘中止にも、どんなことにも。あらゆる外交努力は惨めな失敗に終わり、それは言葉による国連への侮辱、あらゆる西側メディアでのウソ、非難、否定によって逆襲される。シリアは、ワシントンの“全面的世界支配”（**Full Spectrum World Dominance**）——PNAC（新しいアメリカの世紀計画）にはっきり述べられた目標——への踏み石にすぎないと考えられている。

しかしシリアは石ではない、いわんや踏み石ではない。シリアは堅固な石である。シリアは、ロシア、イラン、中国という、考え得る世界最強の同盟国をもっている。この平和同盟が究極的には、悪魔的な米 - NATO - ブリュッセルの、破壊と殺しのテロ同盟に勝利するであろう。

（Peter Koenig はエコノミスト、水資源・環境スペシャリスト。30年以上にわたり、世界銀行、世界保健機構、それにアフリカ、中東、東欧、中央アジア、東および南東アジア、ラテンアメリカで、スイス開発共同機構の仕事をしてきた。ピーターはまた、**Global Research, Information Clearing House, RT, PressTV, Sputnik, TeleSUR**, 中国の **4th Media** のために、地政学アナリストとして執筆している。彼は、*Implosion—An Economic Thriller about War, Environmental Destruction and Corporate Greed*——30年の世界銀行での地球的体験をベースにした小説——を書いている。また *The World Order and Revolution!—Essays from the Resistance* の共著者でもある。）